

チャレンジ&エコツアー “やまぐちアドベンチャー キャンプ”

- ・ やまぐちアドベンチャーキャンプ
- ・ 山口県野外教育活動指導者研修会

主催：山口県教育委員会
共催：（公財）山口県ひとづくり財団
後援：山口市教育委員会

目次

ページ

第1章 事業の概要 02

実施要項

第2章 事業の実際 05

プログラム内容と活動の様子

第3章 事業の効果 09

参加者アンケートから

参加者追跡アンケート（2ヶ月後）から

保護者追跡アンケート（2ヶ月後）から

第4章 指導者の育成 23

山口県野外教育活動指導者研修会

29

事業の概要

令和6年度 地域と連携したリアルな体験活動充実事業

実施要項



令和6年度 地域と連携したリアルな体験活動充実事業
「やまぐちチャレンジ&エコツアー」 実施要項

山口県教育委員会

1 趣 旨

自然体験活動やグループでの他者との関わりを通して、自分の能力や可能性に気づき、子どもたちの社会を生き抜く力として必要な非認知能力（自己肯定感、自律性、協調性、積極性等）の向上を図る。

また、地域の特色を生かしたエコツアーを通して、自然環境や歴史文化等を体験しながら学ぶことで、自然や文化を守り未来への遺産として引き継いでいく活力ある持続的な地域をつくる人材を育成する。

2 主 催

山口県教育委員会

3 共 催

(公財)山口県ひとづくり財団（山口県十種ヶ峰青少年自然の家）

4 後 援

山口県教育委員会

周防大島町

周防大島町教育委員会

5 実施プログラム及び対象、期間等

プログラム名	対 象	定員	期 間	実施場所
やまぐちアドベンチャーキャンプ	小学5・6年生 及び中学生	32人	7月28日(日)～8月4日(日) [7泊8日]	十種ヶ峰青少年 自然の家及び周 辺山城
しまキャン	小学4～6年生 及び中学生	16人	7月20日(土)～7月21日(日) [1泊2日]	周防大島町
魅力発見エコツアー	小学4～6年生 及び中学生	16人	11月2日(土)～11月4日(月) [2泊3日]	周防大島町

6 プログラム内容

プログラム名	活動内容例（実施しない場合もあります）
やまぐちアドベンチャーキャンプ	・バックパッキング（荷物を背負っての山歩き） ・ソロ（一人になる環境で思考する活動） ・ロッククライミング ・マウンテンバイク ・グループミーティング ・クリーンアップ（片付け）等
しまキャン	・講習会（自然・環境） ・シュノーケリング ・シーカヤック ・海浜清掃等
魅力発見エコツアー	・みかん収穫体験及びジュース・ジャム作り ・みかん鍋調理 ・フラダンス体験 ・自然物のリース作り等

7 事前説明会（やまぐちアドベンチャーキャンプのみ）

日時：令和6年6月30日（日）9時30分～12時00分

場所：山口県十種ヶ峰青少年自然の家（山口市阿東）

対象：やまぐちアドベンチャーキャンプ参加者及び保護者（親子での参加）

※しまキャン及び魅力発見エコツアーは事前説明会なし。

内容：プログラムの目的及び持参品説明、保護者との質疑応答、参加者同士の人間関係づくり、野外活動に係る基本スキルのレクチャー等

※応募多数による抽選の場合、事前説明会への出席が可能な参加者を優先する。

8 参加費

プログラム名	参加費	内訳
やまぐちアドベンチャーキャンプ	20,000円	食費、施設使用料、保険代、装備物品代、消耗品費等
しまキャン	8,000円	食費、活動費、保険代、宿泊費、消耗品費等
魅力発見エコツアー	16,000円	食費、活動費、保険代、宿泊費、消耗品費等

9 持参物

プログラム名	持参物（例）
やまぐちアドベンチャーキャンプ	<p>長袖シャツ、半袖Tシャツ、下着、長ズボン、ソックス、帽子、タオル、登山靴、カップ（丈夫な物）、ヘッドランプ、軍手、油性ボールペン、空のペットボトル(500ml)、チャック式クリアフォルダー、歯ブラシ、ビニル袋、虫除けスプレー・虫さされの薬、水着等</p> <p>※ザック等の野外の生活に必要な装備の多くは主催者側で共同装備として準備（詳細は事前説明会時に説明）</p>
しまキャン	<p>衣類（2日分の着替え）、帽子、雨具（傘またはカップ）、懐中電灯、タオル（入浴用と洗面用）、洗面用具、筆記用具、軍手、ビニル袋、常用薬・酔い止め薬（必要な人）、活動用リュックサック、虫除けスプレー・虫さされの薬、水着（ラッシュガード含む）、マリンシューズ、水泳帽子等</p> <p>※詳細は参加決定通知に記載</p>
魅力発見エコツアー	<p>衣類（防寒着及び3日分の着替え）、帽子、雨具（傘またはカップ）、懐中電灯、タオル（入浴用と洗面用）、洗面用具、筆記用具、軍手、ビニル袋、常用薬・酔い止め薬（必要な人）、活動用リュックサック</p> <p>※詳細は参加決定通知に記載</p>

10 募集方法及び申込方法

プログラム名	募集方法	申込方法
やまぐちアドベンチャーキャンプ	<ul style="list-style-type: none"> 5月上旬に県内全小・中学校及び特別支援学校（小・中学部）に募集チラシを配付 地域連携教育推進課ホームページに募集ページを掲載 	往復はがき （6月3日(月)必着）
しまキャン	<ul style="list-style-type: none"> 5月上旬に小・中・高等・総合支援学校に体験活動情報の案内メール登録を促すチラシを配付し、事業実施約2か月前に登録者にメールにて募集案内通知 地域連携教育推進課ホームページに募集ページを掲載 	電子申請 （詳細はホームページに掲載）
魅力発見エコツアー	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携教育推進課ホームページに募集ページを掲載 	

11 その他

- やまぐちアドベンチャーキャンプ参加者の決定にあたっては、不登校等の課題を抱える児童生徒に配慮する。
- 山口県野外教育活動指導者研修会を修了した指導者及び学生ボランティア等が指導にあたる。
- 本事業は文部科学省の委託事業を活用して実施する予定としており、委託契約の条件によっては内容を変更して実施する。

12 問合せ先

山口県教育庁地域連携教育推進課 青少年教育班 担当：中島
〒753-8501 山口県山口市滝町1-1
電話：083-933-4650 FAX：083-933-4669
電子メール：a50400@pref.yamaguchi.lg.jp

事業の実際

令和6年度 地域と連携したリアルな体験活動充実事業

プログラム内容と活動の様子



プログラム内容と活動の様子

1日目 (7月28日)

開会式、ダッフルシャッフル



バックパッキング、地図読み、コース確認



山へ(自然の家～方丈原)



テント設営、野外調理



プログラム内容と活動の様子

2日目 (7月29日)

朝食、バックパッキング、出発



山(方丈原～神角)へ



ディップ(水浴び)



テント設営、ふりかえり、休息、夕食



プログラム内容と活動の様子

3日目 (7月30日)

朝食、テント撤収、水の補給



保護者からの手紙を読む、バックパッキング



出発



中止連絡 ※付近で熊の目撃情報があったため、残念ながらプログラムを中止しました。



クリーンナップ、閉会式、解散



事業の効果

令和6年度 地域と連携したリアルな体験活動充実事業

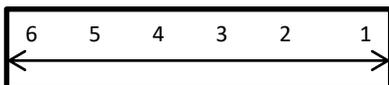
参加者アンケートから



参加者によるアンケート結果

やまぐちアドベンチャーキャンプ2024

事前調査 7/28実施 (回収率 100%)
 事後調査 7/30実施 (回収率 100%)
 追跡調査 10/1実施 (回収率 74%)



とてもよくあてはまる

まったくあてはまらない

□質問をよく読み、自分にあてはまるかどうか、「とてもよくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの6段階で教えてください。

※合計得点の変化を視覚化。「IKR(生きる力)評定用紙(簡易版)」(国立青少年教育振興機構)による。

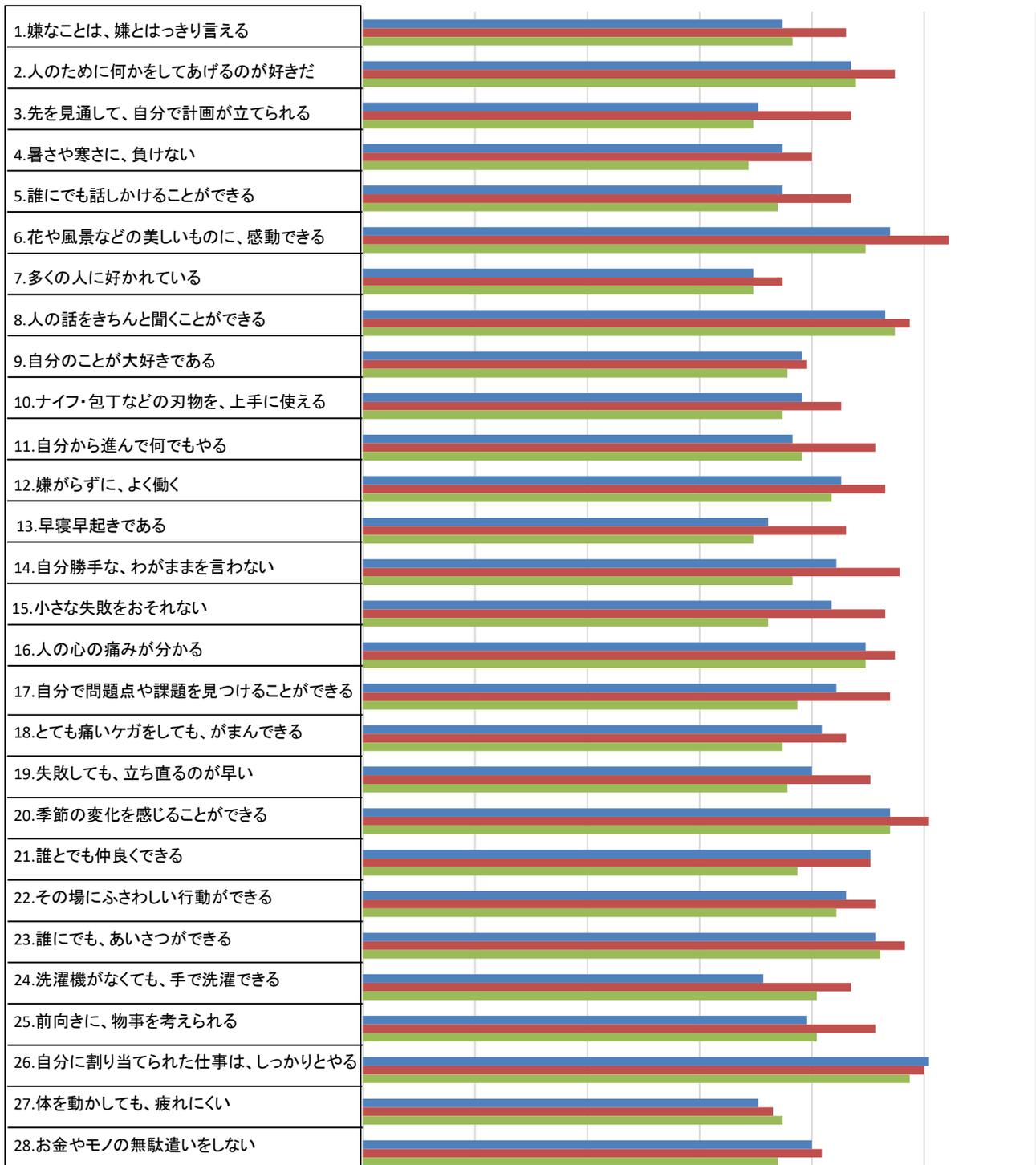
やまぐちアドベンチャーキャンプ

上段:事前調査

中段:事後調査

下段:追跡調査

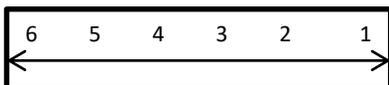
0.00 1.00 2.00 3.00 4.00 5.00 6.00



参加者によるアンケート結果

やまぐちアドベンチャーキャンプ2024

事前調査 7/28実施 (回収率 100%)
 事後調査 7/30実施 (回収率 100%)
 追跡調査 10/1実施 (回収率 74%)



とてもよくあてはまる

まったくあてはまらない

□質問をよく読み、自分にあてはまるかどうか、「とてもよくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの6段階で教えてください。

※合計得点の変化を視覚化。「IKR(生きる力)評定用紙(簡易版)」(国立青少年教育振興機構)による。

チャレンジ&エコツアー

上段:事前調査

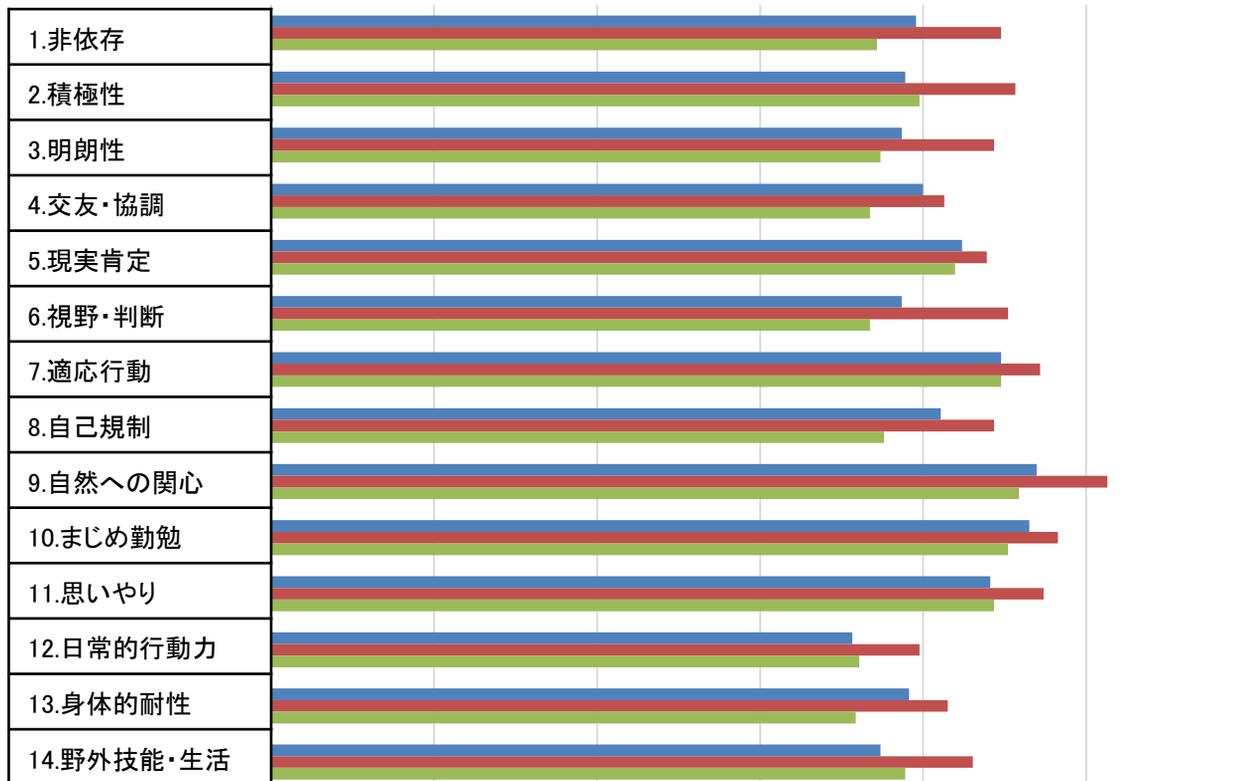
中段:事後調査

下段:追跡調査

0.0 2.0 4.0

6.0 8.0 10.0

12.0



【考察】プログラム前後で生きる力の向上が見られた。因子別においても、全ての因子で得点が上昇しており、特に非依存、積極性、明朗性、視野・判断、野外技能・生活において、1ポイントを超える得点の上昇が見られた。しかしながら、2か月後の追跡調査からは、プログラムの効果が日常生活において十分に持続していないことが伺え、プログラムが途中で中止となったことが影響していると考えられる。

「非依存」の質問項目	<ul style="list-style-type: none"> いやなことは、いやとはっきり言える。 小さな失敗をおそれない。
「積極性」の質問項目	<ul style="list-style-type: none"> 自分からすすんで何でもやる 前向きに、物事を考えられる。
「明朗性」の質問項目	<ul style="list-style-type: none"> だれにでも話しかけることができる。 失敗しても立ち直るのがはやい。
「視野・判断」の質問項目	<ul style="list-style-type: none"> 先を見通して、自分で計画を立てられる。 自分で問題点や課題を見つけることができる。
「野外技能・生活」の質問項目	<ul style="list-style-type: none"> ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える。 洗濯機がなくても、手で洗濯できる。

名称 やまぐちアドベンチャーキャンプ

調査対象事業の概要

(実施期間) 2024/07/28～2024/07/30 2泊3日
 (参加者) 31名
 (主な活動) バックパッキング、テント泊、ソロ、野外調理、ミーティング

調査時期	実施日	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
事前調査	7月28日	31	31	100.0%	23	74.2%
事後調査	7月30日	31	31	100.0%		
追跡調査	10月10日	31	23	74.2%		

分析結果

(分析対象数の内訳)

(人)

性別	小学生			中学生			高校生以上	計
	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生		
男子	-	6	4	2	2	1	-	15
女子	-	5	6	-	3	2	-	16
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
計	-	11	10	2	5	3	-	31

(生きる力・28項目の集計結果)

能力	調査項目	事前調査		事後調査		追跡調査		
		M	SD	M	SD	M	SD	
生きる力		114.8	19.9	125.6	24.6	111.7	23.2	
心理的社会的能力		56.6	11.3	62.5	13.8	54.9	13.6	
	非依存	1.いやなことは、いやとはっきり言える 15.小さな失敗をおそれない	3.7 4.2	1.2 1.3	4.3 4.7	1.3 1.5	3.8 3.6	1.1 1.4
	積極性	11.自分からすすんで何でもやる 25.前向きに、物事を考えられる	3.8 4.0	1.1 1.3	4.6 4.6	1.1 1.4	3.9 4.0	1.3 1.4
	明朗性	5.だれにでも話しかけることができる 19.失敗しても、立ち直るのがはやい	3.7 4.0	1.4 1.3	4.3 4.5	1.3 1.2	3.7 3.8	1.5 1.4
	交友・協調	7.多くの人に好かれている 21.だれとでも仲よくできる	3.5 4.5	1.1 1.2	3.7 4.5	1.3 1.2	3.5 3.9	1.4 1.6
	現実肯定	9.自分のことが大好きである 23.だれにでも、あいさつができる	3.9 4.6	1.3 1.2	4.0 4.8	1.6 1.3	3.8 4.6	1.6 1.6
	視野・判断	3.先を見通して、自分で計画が立てられる 17.自分で問題点や課題を見つけることができる	3.5 4.2	0.9 1.1	4.3 4.7	1.1 1.1	3.5 3.9	1.1 1.4
	適応行動	8.人の話しをきちんと聞くことができる 22.その場にふさわしい行動ができる	4.7 4.3	0.9 0.9	4.9 4.6	1.1 1.1	4.7 4.2	1.1 1.2
徳育的能力		35.7	5.9	38.3	6.7	34.6	6.7	
	自己規制	14.自分かってな、わがままを言わない 28.お金やモノのむだ使いをしない	4.2 4.0	1.1 1.3	4.8 4.1	1.2 1.6	3.8 3.7	1.3 1.6
	自然への関心	6.花や風景などの美しいものに、感動できる 20.季節の変化を感じる事ができる	4.7 4.7	0.9 1.2	5.2 5.0	0.9 1.0	4.5 4.7	1.4 1.5
	まじめ勤勉	12.いやがらずに、よく働く 26.自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	4.3 5.0	1.1 1.0	4.7 5.0	1.2 1.1	4.2 4.9	1.3 1.2
	思いやり	2.人のために何かをしてあげるのが好きだ 16.人の心の痛みがわかる	4.3 4.5	0.8 1.1	4.7 4.7	1.1 1.0	4.4 4.5	1.2 1.5
身体的能力		22.4	4.6	24.9	5.5	22.2	5.5	
	日常的行動力	13.早寝早起きである 27.からだを動かしても、疲れにくい	3.6 3.5	1.1 0.9	4.3 3.7	1.4 1.6	3.5 3.7	1.4 1.5
	身体的耐性	4.暑さや寒さに、まけない 18.とても痛いケガをしても、がまんできる	3.7 4.1	1.2 1.5	4.0 4.3	1.2 1.5	3.4 3.7	1.7 1.6
	野外技能・生活	10.ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える 24.洗濯機がなくても、手で洗濯できる	3.9 3.6	1.4 1.2	4.3 4.3	1.2 1.4	3.7 4.0	1.5 1.4

*各項目で「とてもあてはまる」を6点、「まったくあてはまらない」を1点としてそれぞれ1点刻みで得点化し、項目ごとに平均点 (M) 及び標準偏差 (SD) を算出

(教育効果の検証) 分析方法：反復測定による一元配置分散分析 (分析結果の詳細は詳細出力を参照)

「生きる力」の変容 (得点範囲：28～168点)

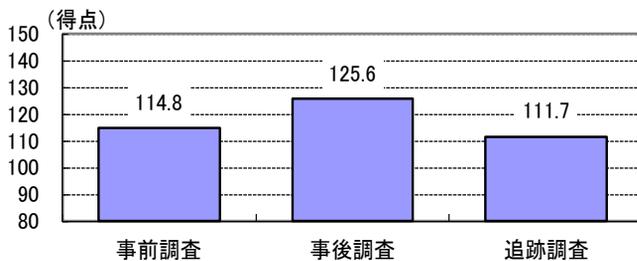


図1. 「生きる力」の平均値の推移

(事前－事後)

- ・事前から事後にかけて 10.8ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

(事後－追跡)

- ・事後から追跡にかけて 13.9ポイント低下
- ・その低下に有意差が見られた

(事前－追跡)

- ・事前から追跡にかけて 3.1ポイント低下
- ・その低下に有意差は見られなかった

「心理的社会的能力」の変容 (得点範囲：14～84点)

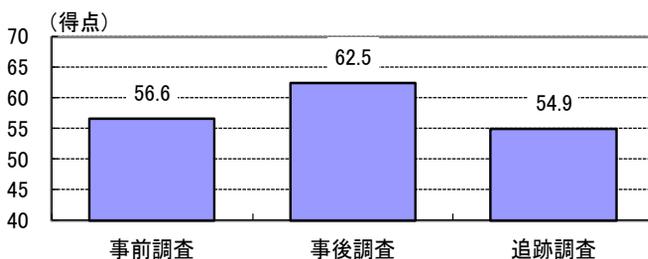


図2. 「心理的社会的能力」の平均値の推移

(事前－事後)

- ・事前から事後にかけて 5.9ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

(事後－追跡)

- ・事後から追跡にかけて 7.6ポイント低下
- ・その低下に有意差が見られた

(事前－追跡)

- ・事前から追跡にかけて 1.7ポイント低下
- ・その低下に有意差は見られなかった

「徳育的能力」の変容 (得点範囲：8～48点)

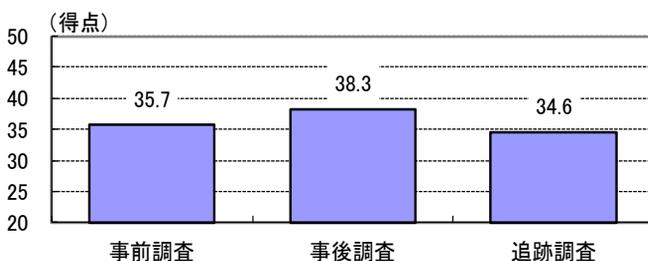


図3. 「徳育的能力」の平均値の推移

(事前－事後)

- ・事前から事後にかけて 2.6ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

(事後－追跡)

- ・事後から追跡にかけて 3.7ポイント低下
- ・その低下に有意差が見られた

(事前－追跡)

- ・事前から追跡にかけて 1.1ポイント低下
- ・その低下に有意差は見られなかった

「身体的能力」の変容 (得点範囲：6～36点)

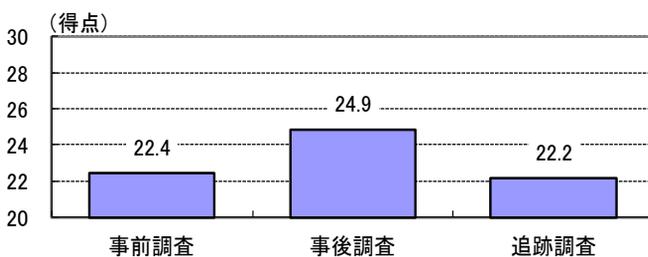


図4. 「身体的能力」の平均値の推移

(事前－事後)

- ・事前から事後にかけて 2.5ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

(事後－追跡)

- ・事後から追跡にかけて 2.7ポイント低下
- ・その低下に有意差が見られた

(事前－追跡)

- ・事前から追跡にかけて 0.2ポイント低下
- ・その低下に有意差は見られなかった

(参加者追跡アンケートから)



やまぐちアドベンチャーキャンプ

参加者追跡アンケート

(自由記述。同じ内容はまとめました)

やまぐちアドベンチャーキャンプの経験を生かして、この2か月で自分が成長したと思うこと

学習面	
<ul style="list-style-type: none">・自分の改善すべきところを見つけられるようになった。・積極的に発表できるようになった。・自分の苦手な分野にも挑戦できるようになった。・粘り強く取り組めるようになった。・山の陰しさが分かった。・学校でリーダー的なものを前よりやるようになった。・弟に勉強を教えられるようになった。・姿勢がよくなった。・経験を宿泊学習の準備に生かした。・今思うと、ご飯のときはコンロの組み立て方、使い方などを学びました。テントをみんなで協力して組み立ててそのテントで少ししゃべったりするのがすごく楽しかったです。	<ul style="list-style-type: none">・集中力が上がった。・包丁の使い方や、地図、コンパスの使い方、テントの立て方を聞き、聞いたことを、しっかり、行動に出すこと。・修学旅行で1人でも行動ができると思えるようになった。・自然のことについて不思議に思うようになった。・自分で進んで取り組めるようになった。・前向きに物事に取り組めるようになった。自主性が高まった。・火の使い方がわかった。・友だちと協力できるようになった。・自然や山の中が陰しいことが分かった。
生活面	
<ul style="list-style-type: none">・自分が今豊かな暮らしをしていることに感謝できるようになった。・自分から動くこと。・自分から火を使った簡単な料理なら作るようになった。・自分から進んで手伝いができるようになった。・嫌な事をされたら嫌といえるようになった(少し)・自然のきれいな景色などがよく分かるようになった。・お手伝いできるようになった。・ものごとを、本気ですること、あきらめないこと、自分から、生活習慣を整えることができるようになったこと。・お手伝いするようになった。・バックパッキングのおかげで、荷物をつめるのが早くなった。丁寧になった。	<ul style="list-style-type: none">・登校しているときに重い荷物を持てるようになった。・自分から進んであいさつや人助けが出来るようになった。・全体を見ること。・平等に分けること。積極的に人のために動くこと。・どうしたら効率よく物事を進めていけるか考えるようになった。・ガスを使うのが大変だと分かった。・人に言われたことをすぐに行動にすることができるようになった。・早寝早起がだいぶできるようになり、体力も向上した。・色々な人と話せるようになった。・自分から働くようになった。・自然に興味をもつようになった。
その他	
<ul style="list-style-type: none">・仲間と協力することの大切さや人との向き合い方について考えながら行動することを意識できるようになった。・体を動かすことが好きになった。・楽しいことが増えた。・率先して動くことができるようになった。・苦手な人や、あまり話したことのなかった人と、向き合ってみることに。・学校で自分から進んでやることが増えた。	<ul style="list-style-type: none">・知識が上がった。・自然をみるようになった。・重い荷物を持って移動するのが大変だったので来年は参加するかどうか悩んでいます。・最後の日に余ったりんごやオレンジを切って食べたのがすごく楽しかったことを覚えています。うさぎの形にしたり楽しかったです。・包丁を使う機会が前よりも増えました。

やまぐちアドベンチャーキャンプ 参加者追跡アンケート (自由記述)

チャレンジ & エコツアーの経験を生かして、この2か月間がんばったことや感じたこと考えたこと

この2か月間でがんばったことは自分が嫌、めんどくさいと思った場面でも人のために動くことです。私の学校の掃除ではリーダーを決め、掃除終わりにリーダー中心に反省会をするのですが、誰もやりたがっていませんでしたので手を挙げました。これは2か月前の私では考えられないことでした。また、勉強面ではがむしゃらに勉強しているだけだったのが、自分を見直して苦手なところを見つけられるようになりました。3日しか体験することができなかつたけど学んだことは多いと思いました。

(中3女子)

この2か月間がんばったことは、簡単な調理に挑戦したり、包丁の使用回数を増やしたことです。

(中2女子)

やまぐちアドベンチャーキャンプの経験を通して、自分が無理と思う課題にもチャレンジすることができるようになりました。なぜなら、最初は、山に登るなんて無理だと思っていたけど、仲間と協力して、一日目は登ることができました。なので「最初から無理と思わずに、チャレンジしてみる」と、心が成長したと考えました。2つ目は、自分から積極的に人のために動くことができるようになりました。今までは、自分から動くことは少なかったけど、やまぐちアドベンチャーキャンプで自分から動くことの大切さがよく分かりました。私は、二日目に山へ登れなかったけど、一日だけでも、たくさんのことを知ることができました。

(中2女子)

嫌だと思ったことを嫌だと伝えることができるようになった(間接的にだが)。日常にまた戻って、自分達はずっと楽をしてきていたんだと思った。

(小6女子)

生き物を大切にす。物を大事に使う。なるべく捨てない。

(小5女子)

階段をのぼるのがきつくなってきたのでアドベンチャーキャンプの体験が生かされました。

(小5女子)

自然と仲良くなれたと1番思いました。自然に触れたり、見たりすることで、自然の大切さを知ることができました。仲間との協力も大事にしています。仲間と協力することで、自分が知らなかった事まで教えてくれるので、嬉しかったです。コミュニケーションも大切にしています。自分からあいさつをしたり、話しかけたりすることで、お互いに良い気持ちになるので、自分からコミュニケーションを取るようになっています！

(中2女子)

やまぐちアドベンチャーキャンプでは、協調することや、やるべきことを見極めることが少しできるようになりました。9月には体育祭がありました。それぞれの隊で団結し、3冠(総合優勝、応援優勝、団結賞)をめざして練習に励みました。応援合戦や騎馬戦では、キャンプを通して培った集団に合わせる力が発揮されたと思います。ちなみに私の隊は総合優勝を果たし、とても良い思い出になりました。今月は文化祭があります。私は生徒会執行部に入らせていただいているので、今は文化祭の準備に追われています。毎日のように朝早く家を出て部活を引退した同級生よりも遅く帰っているので、疲れるときもあります。充実した日々を過ごしています。ここでは、自分のできることを見極め、すぐに動く、というキャンプで身についた力が大切なのだと改めて感じました。準備もそろそろ大詰めなので、最高の文化祭にしたいです。私はもう中学3年生で、このキャンプに参加することはできません。しかし、このキャンプでの思い出や新しい友達を忘れず、これからも頑張りたいです。

(中3女子)

山を歩いて、たまにきれいな景色が見えるときにきれいだなと思った。山の知識。キャンプをして、相手の気持ちや、困っている人がいたら、自分から声をかけることができるようになった。

(小5女子)

前までは「リーダーをしたくない」と思っていたけれど今は、「したい、してみようかな」と思うようになった。

(小5女子)

2回目のキャンプで去年すごく重かった物が成長して少し軽く感じてびっくりした。夜、トイレ行くときとかすごく怖くて不安だったけど、空を見るとたくさんの星があってすごくきれいだった。冷たい水を汲みに水がわき出ている所に行ってペットボトルに水を汲んだり、バンダナを冷やしたり、すごく冷たいおいしい水でうれしかったし楽しかったです。このキャンプで少し暑さに強くなった気がしたし、1日1日がすごく思い出に残ったキャンプだった。

(小6女子)

前までは積極的に動くことが苦手で行動できないことも多かったが、今はちょっと勇気を出して自分から動いたりできるようになった。

(小6女子)

人と話をするのが少し楽になりました。

(中3男子)

僕が、この2か月間で感じたのは、やっぱり自然っていうのは、厳しいところもあるけど、優しい所もあるなというところ。僕は、あまり友達づきあいが得意ではなく、いつもいじられたり空気が読めなかつたりしています。けれど今回のキャンプは、自然という一つのものを共有できたことで、みんなとすごく話しやすかったです。やっぱり、今はゲームやアプリなどが色々あって、流行のゲームの話にのれなかつたりすることも多くなっていて今回のキャンプも同じように、のれなかつたら…と書いていたのですが、みんなと盛り上がり、コミュニケーションもとれて、楽しめてよかったです。小学生の子たちが、心が折れて泣いているときに、先生たちが、真っ先にサポートしてくれていてかっこいいと思いました。短い間でしたが、ありがとうございました。

(中1男子)

あれから、僕は、自分でものを考えてそれを生かす、ということをしっかりできるようになったと感じました。それと、「心身をきたえる」という目標も、達成できたと思うし、この状態を続けたいなと思いました。最後に、人と協力することが大事だと学びました。一人ではできないことも、人と協力してやると、上手くできると知りました。この、キャンプで学んだことを忘れず、これからも、過ごしていきたいです。

(中1男子)

キャンプの時は、毎日疲れて、だるくてやばかったけど、3日間重い荷物を持って歩いたので終わったときは達成したという気持ちになった。料理も自分たちでするので美味しくできるのか心配だったけど美味しかったので、家でも料理ができると思った。

(小6男子)

家の人にお手つだいや、家族の思いに少し変化したところがあるなと思いました。そして、あらためて、いろいろなことへの思いが変わって、自分に何ができるかなどが、少し分かってきたような気がしました。

(小5男子)

自分で進んで勉強に取り組めたり、人に言われたことをすぐに行動したりすることができました。また、一人ではできないことでも、みんなでするとできる協力を学ぶことができました。

(中2男子)

ぼくは今、学校で学級委員になりました。自分から進んで立候補して学級委員になりました。このように自分から進んで物事に取り組むのをがんばりました。

(小6男子)

自然の移り変わりに目がいくようになった。だから自然を大切にしようと思った。

(小5男子)

3日間とはいえ、とてもつらい”やまぐちアドベンチャーキャンプ”だったので、「あのつらさに比べたら、楽勝だ」と、思うことが、この2か月よくありました。今まで経験した野外活動の中で、間違いなく一番きつい活動でした。みんなよくがんばったと思います。写真ありがとうございました。家族みんなで見ました。中学生になりますが、今回3日間で終わってしまったし、またチャンスがあれば、応募したいです。

(小6男子)

アドベンチャーキャンプの友達、仲間と仲良くなってそこから知らない友達や違う学校の友達との交流でも話せるようになったこともよかった。アドベンチャーキャンプに行って自然や季節の変化などのことを感じとれることができた。停電になった時には、アドベンチャーキャンプのことを思い出して行動ができた。僕は、心が少し弱く感じました。心を強くするためには、失敗を恐れずに何ごとにも楽しい気持ちをもってチャレンジすることだと思います。これからの色々な場面でそのことを意識したいです。

(小5男子)



(保護者追跡アンケートから)



プログラム効果に関する保護者アンケート

アンケート実施 2024年10月
(保護者対象)

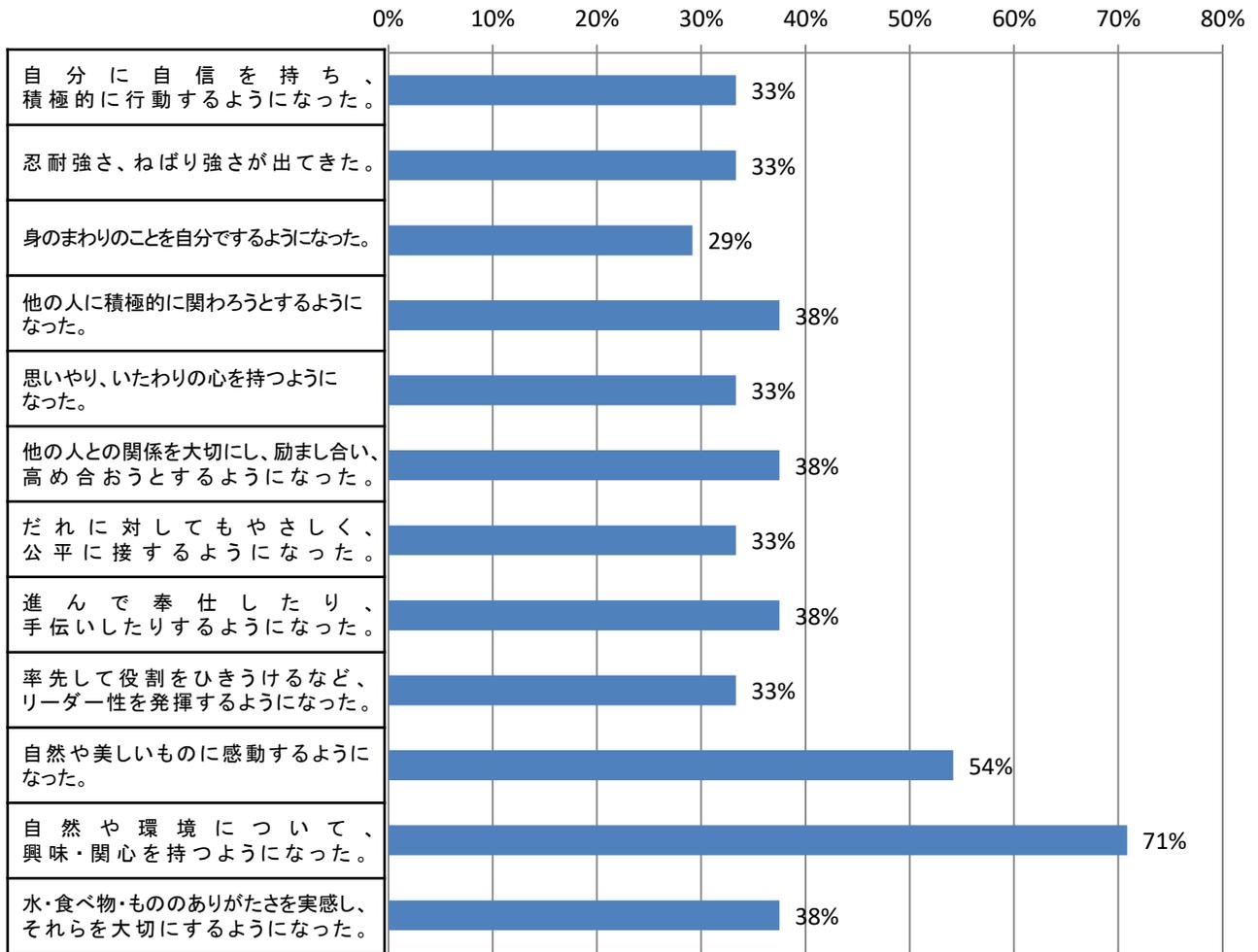
回答数・率
・チャレンジ&エコツアー
(24/31人 74%)

プログラム終了後、2ヶ月が経過した時点で、「好ましい変化」が持続しているか。

Q1. この事業に参加したことで、お子様の考え方や行動に「プラス」と思われる変化はありますか？
(他者との比較ではなく、お子様自身の変化についてお答えください。)

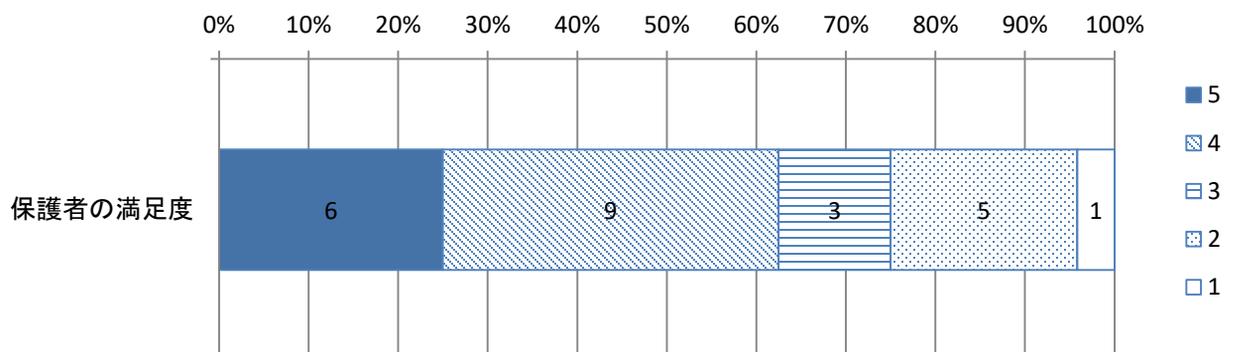
※「1 あてはまらない」「2 どちらともいえない」「3 あてはまる」の3段階回答のうち、**「3 あてはまる」と答えた方の割合**

やまぐちアドベンチャーキャンプ (2ヶ月後)



Q2. 今回のプログラムを振り返って、どう感じておられますか。(満足度)

「1 満足していない」「2 あまり満足していない」「3 どちらともいえない」
「4 ほぼ満足している」「5 大変満足している」 の5段階からの選択



保護者の感想～やまぐちアドベンチャーキャンプ～

自分から手伝いをしたり、聞いてくれる事が増えた。友人関係の幅が広がり、後輩とも仲良くしている。社交性が高まった。家の中では大きな変化はあまり感じてはいないが、学校の担任の先生から、誰もしない、したくない事を率先しているとほめてもらった。反抗期の真只中で、キャンプ前よりも激しくなった様に感じていたが、言い換えれば、自立心が強くなったのかもしれない。進路の話を自分からしたり、机に向かって考査や、検定の勉強を一生懸命にやっている事が増えた。将来やりたい事が見えてきたのかもしれない。貴重な体験をさせてもらいありがとうございました。これからの成長がもっと楽しみです。

(中3女子の保護者)

キャンプ直後は感傷的に保護者になり、変化があったかもと期待したが、現実には内省まではできていなかった。来年は中学3年生であり、受験を控えているが、もう一度参加させたいと思っています。

(中2女子の保護者)

中止をする勇気・大切さを学んだと思う。冬に同じメンバーで夏のキャンプの中止にいたったことを見つめ直し、命を守る行動について考える機会があればと思います。

(中2女子の保護者)

残念ながら、7泊8日から2泊3日への変更の中では、感じられる変化はありませんでした。

(小6女子の保護者)

テントで寝られるのか、お風呂に入らなくても大丈夫なのか、など親としては不安なことが多かったですが、本人は「夜、外を歩いたら星がきれいだった」、「川に入るのが楽しかった」と困っていなかったようでよかったです。終わって2、3日は「仲間と過ごした生活が貴重な経験だった」とか「来年も参加したい」と話していました。しかし、1週間を過ぎるころには「荷物を背負って歩くのがきつかった」とか「先生の話聞かない人がいてうるさかった」とマイナスな発言が増えました。キャンプで1週間過ごすことができれば、もう少し達成感が持てたのではないかと思います。残念ながら感じました。もちろん安全面が一番大切だと思うので中断は仕方のないことだとは思いますが。

(小5女子の保護者)

キャンプに参加する事が出来て本当に良かったです。短い期間でしたが、娘の成長を感じ嬉しく思っています。以前は、忘れ物が比較的多く心配でしたが、キャンプ終了後、意識して準備と確認を行うようになり、忘れ物が減ったように思います。又、自然の中で過ごし感じ、学び、頑張った事で、自分にも少し自信が持てたようです。本当に沢山の貴重な体験をさせて頂き感謝しています。ありがとうございました。

(中2女子の保護者)

ずっと参加させたいと思っていたこのキャンプに当選し、とても嬉しかったです。これまで習い事や部活で応募するタイミングがありませんでしたが、中3になって部活引退を機に、最後のチャンスにかけて良かったです。熊の出没でたった3日間で終了しましたが、仲間達と涙を流し、別れを惜しむほどの絆が出来、人との関わりのすばらしさを学べたようです。重いザックを背負っての山歩きで忍耐力が付き、水遊びで清流の冷たさを、暑さの中で食べる瑞々しい果物の美味しさを実感していました。このタイミングを活かし、これまでの2ヶ月間に、親子で、県内各地の青少年自然の家自主事業や、農業法人での野菜収穫体験に参加し、県内の恵まれた環境を再認識、地元の自然や味覚を楽しんだところです。娘は現在、生徒会に所属し、仲間と協力する大切さも毎日感じております。本キャンプでの経験も学校行事に取り組む上で役立っていると思います。多感な時期に親元を離れて非日常を体験させてみたかったので、実現出来て嬉しかったです。教育的価値の高い本企画を、有難うございました。親としては、キャンプでの熊出没を契機に、全国の熊事件報告と、熊との関わり方に関する本を読みました。ツキノワグマが生息する県内で、自然を楽しむ時の注意点を勉強することが出来ました。

(中3女子の保護者)

キャンプから帰宅後は、家族に対して、思いやりを持つように心掛けた発言、言動が少し見られました。この調子が続けば良いなと思っています。本人は、きつい事もあったと思いますが、それよりも「とても楽しかった、帰りたくなかった」と言っていました。

(小6女子の保護者)

去年は「つらすぎて 重すぎて 泣いた」でも「楽しかった」「コロナで途中帰宅が残念」という言葉が聞かれ、今年はまだ参加しないのかと、期待していませんでした。しかし「今年もチャレンジしてみたい」という娘の言葉から申し込み、運良く参加できることになり、親としても最高にうれしかったです。「十種ヶ峰の湧き水は冷たくて最高だった」「星があんなにきれいに見えたのははじめて」「去年よりザックが軽く感じた」「2年間途中で帰るようになったので中学生でもチャレンジしてみたい」とも言っていました。プラスにとらえていて、とてもうれしかったです。娘の話を聞いて私も十種ヶ峰に行ったような気分になり、わくわくしました。欲ばりですが、中学生になっても本人が「行きたい」と希望すればぜひ参加させたいと思います。また1年後の成長した姿を見てみたいと思います。本当に貴重体験をさせてくださり、感謝しています。ありがとうございました。

(小6女子の保護者)

元々、学校でも積極的に何かをするというのを聞いたことがなかったのですが、学校の先生が積極的に学校行事に参加したり、下の学年の子のことをよく見てお世話してくれるようになったと話されていました。自分から色々動くようになり、その変化がとても嬉しいです。

(小6女子の保護者)

今回、このキャンプの特性をよく知らずに申し込んでしまいましたが、説明会に参加し、かなり過酷なキャンプだということと同時に、他では経験できない大切な事がたくさん学べそうなキャンプだと思い大変期待しておりました。すばらしいスタッフの皆さん、中島様をはじめ教育委員会の皆さんに大変な準備をして頂いて、心から感謝しています。熊という不可抗力でキャンプが2泊3日で終わってしまった事は大変大変残念でした。娘は前ページにも書いたようにキャンプの活動には自信がなくなってしまった様ですが、キャンプでできた仲間やスタッフの方々の事は大好きで、また会いたいと言っております。まだ5年生なので、もう1度チャレンジさせたいと思います。

(小5女子の保護者)

今回は途中でプログラムが中止となり、残念でした。もう少し日数過ごせていればと思いました。仕方ないんですが…本人もロッククライミングを楽しみにしていたので、不満の様子でした。しかし、経験できた事もあり、本人も楽しんだり、大変さを感じたりできた様です。普段このようなイベントに参加したがるらない子で、本人がやりたいから申し込んで欲しいと言ったのは本当に驚きでした。またイベントに参加したいと言った時は、協力したいと思います。担当者さま、写真ありがとうございました。色々とお疲れ様でした。

(小5女子の保護者)

途中で中止という形になりましたが、とても楽しかったことが伝わってきました。何でもチャレンジするところ、キャンプに参加すると決めたことだけでも自信に繋がっているように思います。

(小5女子の保護者)

表情が豊かになった。

(小5男子の保護者)

まさか対策を予告されていた「クマ」が出るとは…準備されておられた皆さんも大変だったと思います。④の「不満足」と書いたのは皆さんに対してではなく完走できなかったという点(不可抗力)に対しての「不満足」なのです。なのでぜひ来年もリベンジで参加させたいと思います(本人はどう思っているのか?)達成感を味わってほしいですね。それはさておき、段取り頂いた皆様ありがとうございました。感謝しております。

(中1男子の保護者)

「あのキャンプに比べたら」と重い荷物を積極的に持ったり疲れてしまってもがんばることが出来る様になったと感じます。

(小5男子の保護者)

このようなプログラムに子どもを参加させられたこと、関係者のみなさまの御尽力・支えにはまずもって感謝いたします。熊により中止となってしまった事は残念でした。最後までプログラムを乗り越えた時、息子がどのように感じるかを楽しみにしていましたので、大変残念です。本人も、やりたいプログラムがあったのにと悔しがっています。正直、今回の2日間で、息子の表面上の変化は感じられませんが、過酷な環境の中、インストラクターと仲間と過ごした事は、必ず彼の心に残っていると思います。たった2日間ではありましたが辛かった事、楽しかった事がたくさんある濃い内容だったと話してくれました。この経験は今すぐに生きてくる事ではないのかもしれませんが、25年前にクエストキャンプを経験した私自身がそうだったように、将来、必ず彼の助けになってくれると信じています。大変お世話になりました。

(中1男子の保護者)

3日間でも子どもなりに達成感があったのだと、子どものアンケートを読んで知りました。親は、もっと〇〇になってほしい、と望むばかりで勝手なものです。今は「もう絶対いかない!」と重い荷物を思い出して言ってる子ですが、もしかしたら来年再チャレンジする気持ちになるのではないかと期待しながら子どもを見守っていきたいと思います。この経験は子どもの人生に糧になったことは間違いありません。指導者のみなさま、大変ありがとうございました。

(小6男子の保護者)

途中中止となり残念でしたが、本人が希望するキャンプに少しでも参加させることができ、よかったと思います。3日間の参加ではあまり変化を感じることはありませんが(普段の生活態度)今までやる気の出なかった習い事(空手)に前向きに取り組むようになり、先生からも少しずつほめられることが増えたようです。来年もぜひ参加したいと本人が言っています。受験生ですが…またお世話になるようなことがあればよろしくお願ひします。

(中2男子の保護者)

キャンプから帰る車の中で、とても充実した顔で話をしてくれました。見た事のない様な嬉しそうな笑顔で、苦労話を聞かせてくれました。それから、数日、数か月と経ち、何が得られたのだろうかと思う事の方が多かったのですが、2学期が始まり、「学級委員になったよ」と、言われて、変わったなと思いました。目立つ事は嫌いなタイプなのに、率先して手をあげたそうで、自分の中の人のために何かしたいという思いが成長したのではと思います。それから、将来の夢の話をする事も増えました。コロナで失った時間は取り戻せませんが、これから、たくさんの人と出会い体験の中で、キャンプで与えて頂いた事が生かされていくと思います。山口県で子育てが出来て本当に良かったと思いました。

(小6男子の保護者)

学校から募集チラシをもらい、それ以外の前情報無しに、気軽な気持ちで応募しました。事前説明会で話を聞いて私は更にビックリ!!想像を超えるガチキャンプだったからです。これはひょっとして本人、行きたくない～と言い出すか、と、少し心配にもなりました。ところが、説明会が終わって合流しましたら、目がキラキラしているのです。私の気持ちとは裏腹に、すごく張り切っています。親の心配は杞憂でした。ですが、説明会から日が経ち、キャンプが近づくにつれ、本人は不安な気持ちが出てきたようでした。事前説明会から当日まで約一ヶ月。物品の準備と、子どもの気持ちの動きを考えると、約一ヶ月が絶妙だったかもしれないですね。そして、キャンプが終わり。キャンプから帰りの道、車の中で色々聞いてみました。日頃、その日の出来事を、まめに話すタイプではありません。日頃は私が聞くとしぶしぶ答える感じで、「忘れた」とか「なんでそんなこと話さなきゃいけないの」とか言いまして、ポツリポツリとしか話しません。ですが、この日ばかりは色々と話してくれました。まず第一声は「最後までやりたかった!!!熊めええ!」でした。以下は本人の話です…「そりゃあ、最終日までやりたかったよ!途中で中止と聞かされた時、ボク、ぽか～ん…嘘じゃろエーツツ!!!って。すごくショックだったし、悔しかった。(※中略)クックは皆で交代してやるんよ。ボクはキュウリを使う担当になったんだけど。調味料は何種類かあったから、そのまま食べるより美味しくしたいと思って。皆がパクパク食べてくれて嬉しかったあ。お母さんからの手紙ね、感動したよ。今回のキャンプしんどいでしょ。ボク、手紙読んで涙が少し出た、少しね。友達も泣いてる子いたよ。そりゃ、泣くよね。(手紙は帰ってから宝箱に入れてくれていました)今回のキャンプ一番良かったのは、一言で表すとしたら、”達成感”だね!!!とてもつらいのだけど、ゴールに着いたら、なんともいえない「やった～!!!」っていう気持ち。つらい分、ゴールに着いた時の、達成感と充実感が半端ない。山登りっていいね!それに、友達と皆で一緒に登れたのが絶対いいよ。途中でさ、皆で、疲れてもうダメだあ～とか言ったり、くだらないお喋りしたり。つらすぎて一人じゃ無理だ。皆が居たからできたよね。参加して良かったよ、ほんとほんとと!!!またチャンスがあれば応募してみようかな。」最後に…事前説明会で話を聞いて内容の過酷さに驚いたわけですが、後で考えてみるとチラシに最低限の内容しか記載されていなかったのが良かったかもしれません。でないと、チラシの時点で、親が勝手に「うちの子には無理だな」と判断したり子ども自身も「行きたくない」と思ったりして、申し込まなかったかもしれません。子どもの可能性を狭めてしまうところでした。今回参加させていただいて、私達も知らない、子どもの心と体の強さを知りました。途中で中止になって、本人は「ラッキー」と言って帰ってくるかな、と思っていたのですが、違いました。子どもは「最後までやり遂げたかった」と。周りの大人が思っている以上に、子ども達は前向きな強さを持っているんですね。それに、子どもを通じて、大人の私も何だか自信と元気をもらえた気がしました。本当に有り難うございました。

(小6男子の保護者)

生活の様々な場面で「キャンプの時にこう聞いた」「災害の時にはキャンプでこうしていたから、この方法が使えると思う」などと話しに出たり、参加しなければ知ることができなかった知識を得ることができたり、体験させていただけたと感じています。日程の途中での終了となったことはとても残念でしたが、それも自然と向き合うことだと理解できたようです。習い事のように、今まではあまり自分から積極的に話しかけるタイプではありませんでしたが、キャンプ以降、別の学校の子や指導者の方に話しかけている姿を見ることができ、大きな変化かなと思っています。最後になりますが、アドベンチャーキャンプに参加させていただきありがとうございました。

(小5男子の保護者)

思っていたより短い期間でしたが、自分の行動に気をつけるようになったと思います。すぐにパニックになっていたのが落ち着いて行動するようになりました。冷静になった気がします。参加して本当に良かったです。今もキャンプの話が度々出てきます!

(小5男子の保護者)



指導者の育成

山口県野外教育活動

指導者研修会



令和6年度 山口県野外教育活動指導者 研修会前期日程修了にあたって

大浴 一航 (宇部市立東岐波小学校)

本研修に参加するにあたり、漠然とした不安があった。そもそも参加するきっかけとしては、昨年度のリテラシー体験会で紹介を受け、参加を決めた。しかし、説明会に参加したり、参加者の話を聞いたりすることで、次第に不安が大きくなっていった。必要な道具をもって山に入ったことはあったが、8泊9日という期間は初めてであったことが大きかった。また、必要な道具の準備を進めるにあたって、その不安も大きく現実的なものになっていった。後になって考えると、参加する子どもたちも同種の不安をより大きな形で抱えて参加してくるのかなと想像することができた。

1日目の朝、ダブルシャッフル時、荷物の量と重さに驚いた。一つ一つの荷物を背負い、全荷物を背負ってみると、「こんなに量があるんですか」「重っ」などマイナスな言葉をたくさん言ってしまう。自分は思ったことを口に出すことで安心しようとするところがあるらしく、後から聞いた話によるとその言葉によって周りの参加者の不安も増長してしまっていたらしい。反省すべきである。歩きながら、本研修のハードさをだんだんと自覚していった。自分は肌が弱いため、汗と疲労、かゆみ、服の重さでとても気持ちが悪かった。自分にとって、長袖シャツのもっとも重要な性能は速乾性であると学んだ。休憩を挟みながら1日目のゴールにたどり着いたとき、同メンバーのクラアヤの体調が悪化した。以前にも参加したことがあり、熱中症でのリタイアだったという話を聞いていたので、全員でゴールできないのかという思いと、明日は自分が体調を崩すのではないかという思いでいっぱいになった。

2日目、最初の山の頂上までが一番大変だった。急な傾斜と荷物の重さ、いつまで続くのかという不安感に苛まれていた。山頂を超えると、急に元気になった。後から考えると、頭の中に変なスイッチが入ったような感覚で、後に自然の家に着くまで精神的に元気な状態が続いた。同メンバーのおんずーはずっと元気で、話題が尽きないまま歩き続けることができた。2日目にディップ(川に入る)を行ったとき、体の汚さと、二日間の頑張りを再確認することができた。母指球に痛みがあったが、テーピングを貼ると続けられそうであった。

3日目も精神的に元気な状態が続いた。しげちゃんのタイムキープのおかげでスムーズに進むことができた。もえちゃんが所々大変そうな様子であったが、励まし合いながら進むことができた。3日目ゴール前にしげちゃんがダウンした。涙を流しながら、顔の筋肉が麻痺して受け答えが難しくなりながらも足は決して止めなかった。介抱しているとき、できることを見つけれない自分が歯がゆかった。夕食作りなども協

力して行うことができ、集団としてのレベルが上がっていると感じた。体調がすぐれなかったメンバーも回復し、最初感じていた不安もなくなり今後のプログラムを見ても、完走できるイメージを明確に持つことができた。明日以降が楽しみになってきているとき、クマの目撃情報による中止の連絡を受けた。初めは信じられず、周りの参加者の涙を堪える声を聞き、現実味を感じた。完走できるビジョンを持っていたために残念でならず、やるせない気持ちのままその夜を過ごした。正直なところ、家に帰れる喜び、家族に会える喜びを感じている自分もいたが、その喜びは8泊9日を完走した上で味わいたかった。最後の夜、おんずーと話をした。今までの感謝や研修の話、仕事の話などいろいろな話をした。

4日目の朝、リーダーの役割を任された自分は、もう終わってしまう本研修に際して、「良い日にしよう。」という目標をもって全体に声をかけた。4日目のプログラムは急遽マウンテンバイクで自然の家に戻るという内容になり、みんなで協力しながら寄り道を楽しみ、自然の家までたどり着くことができた。到着した時、喜びの声よりも「着いてしまった」という残念な声がグループから漏れていたのが印象的だった。クリーンナップ(使った道具をきれいにする)活動に入るのだが、自然の家についてから頭がぼーっとしたり、考えがまとまらないという状態になった。前述のスイッチが切れてしまい、作業の効率がとても悪くなっていた。ほかの参加者がたくさん優しい言葉をかけてくれたことは覚えている。

本研修を終え、風呂に入り、家族と会い、スマホを使い、コンビニに行き、当たり前前の日常にあるたくさんのありがたみを感じることができた。一人の人間として、当たり前前の生活や、そこにある幸せをかみしめられる人間でありたいと感じた。そして、そのことを子どもたちに体験してもらう機会の希少性と必要性を考えることができた。本キャンプと並行して行われたやまぐちアドベンチャーキャンプは子どもたちにとって、一生忘れることのできない貴重な経験になるだろう。その学びを如何に良いものに、貴重なものにできるか、ファシリテーション力を高めていきたいと感じた。



恩塚 祥平(平生町立平生小学校)

1日目、ダッフルシャッフルを行い、体育館で荷物のパッキングを行った。パッキングを行いながらみんなと話をし、アイスブレイキングの時よりも距離が近くなれた気がした。しかし、何をどうすればよいかわからないということもあり、まだまだ遠慮のある空気だったことを覚えている。午後からモーターで大潮神社へ移動し、そこからいよいよ登山がスタートした。地図で現在地の確認をし、進む方向を班で話し合いながら進んだ。スタートしてすぐに、近道できる場所を発見した。そこを通るか通らないかで10分ほど話し合いをしたと思う。まだ自分の意見を主張するには、年齢や経験の差が壁になっていたのだと今になって思う。夜のミーティングでは、自分のできないところに目が行きがちで、みんなも反省する点を挙げていた。そんな中で、インストラクターが「ハイアンドロー」という振り返りの手法を取り入れており、気持ちが高まったことと沈んだことを一人ひとりが伝えた。そうすることで、互いに感謝の言葉や改善策を考えるきっかけとなり、次の行動へつなげられることを学んだ。

2日目は、筋ヶ岳、弟見山と県堺の稜線を歩き、次の目的地を目指した。登りはしんどいが、山頂に到着すると景色がよく、今までの疲れが報われるようだった。体調不良だった仲間もだんだん元気を取り戻すことができ一安心した。しかし下山中、別の仲間が体調を崩した。登りで元気いっぱいだった分の疲れがきたのだろう。自分は前の方で先へ先へと進んでしまい、後ろから「待って！」と声を掛けられやっと思いついた。並ぶ順番にも配慮が必要だと思った。全員で下山できた時は本当に嬉しかった。夜のミーティングでは、辛いことは我慢をせず、きちんと言葉にして伝え合おうと話し合った。それと、2日目は長い道のりに「まだ着かないの?」「いつまで下り坂が続くの?」と思う場面が精神的疲労を加速させていたことがわかった。地図の読み方を教わり、現在地と目的地、距離や時間の見積もりなど、先を見通せるスキルが大事だと感じた。

3日目は登山のリズムづくり、地図読みのスキルをこの日のリーダーとナビがしっかりと行ってくれたおかげで、気持ちが滅入ることなく楽しく進むことができた。見通しを持つということは何事においても大切だと思った。役割があることで、みんなが同じようにグループへ関わることができた。また、得手不得手はあるものの、助け合ったり支え合ったりすることもでき、大切なことだと感じた。同じ役割を行うことで、より相手への理解が高まったとも思う。テント場までもう一息というところで、仲間の1人が体調不良でダウンしてしまった。登山口まで降りてきた時に体調不良は訴えていたが「大丈夫?」と声をかけると「大丈夫、気にされる方が辛い。」と返事が返ってきたので、そのまま歩き続けた結果だった。スタッフの方々も合流して自力で歩けるまで回復することができたが、命に関わる状況になってしまった。夜のミーティングでも、

『大丈夫?』と声をかければ『大丈夫』と返事がある。けれど、その人の状況や様子などから、『大丈夫じゃないよね?』と、一歩踏み込んだ関係になれるといいね。」とインストラクターから話があり、自分も一歩踏み出してみようと思った。本人の意思を尊重することも時には必要だが、状況を考えて行動を起こすことをしようと決めた。

4日目の朝は、初めて時間通りに出発することができた。これまでのミーティングで話し合ってきた、言葉で伝えることや、行動を取ること、また、キャンプを通じて身に付けた「みんなでやる」という連帯感がつながった瞬間だった。サイクリングのルートをみんなで話し合っただけで決めた。途中、そのままのルートか、迂回ルートにするかを決める際、全員の意見が1発で一致した時は、みんなが同じ気持ちなのだ嬉しくなり、余計に解散するのが悔しい気持ちになった。1人では決して選ばないルートだが、少しでもみんなと活動をしたいという気持ちの現れだと思った。

全体を通して、感じたことが3つある。まずは、見通しをもって活動することで、時間を意識した行動になることである。「出発が〇時だから、それまでにやることは…」と逆算して行動に移していくことが大事だと思った。そして、これは誰か一人が頑張ればよいのではなく、みんなで支え合うことの大切さを学んだ。次に、自分の思いを言葉にすることである。良いことも悪いことも、相手に伝えないと、結果的に迷惑や心配をかけてしまうことにつながる。特に、山での生活は命の危険に晒されることもある。言葉で伝えることで、みんなで考え乗り越えるきっかけにつながったことも多々あった。しかし、言葉の先へ一歩踏みだして関わる勇気を持ちたいと思った。最後に、仲間の大切さである。隣に同じ苦しみを抱えている仲間がいたからこそ、辛いことも頑張ろうと前向きな気持ちを保ってこられたと思う。当初の予定よりも短い期間になったが、仲間と支え合っただけでやり遂げることの楽しさを味わうことができ、とても充実した3泊4日となった。



倉永 綾香(宇部市立栗石小学校)

3泊4日という短い期間となってしまいましたが、何物にも代えがたい貴重な経験をする事ができました。

1日目は、前回の研修会で体調を崩したところということもあり、緊張と不安な気持ちで迎えました。「水をこまめに。ゴープをこまめに食べる。」自分自身に言い聞かせながら歩きました。途中、氷を食べたり、首に冷たい水をかけさせてもらえたりする休憩時間が最高のご褒美だと感じました。順調に歩き進め、その日のテマ場まで着くことができました。到着時には、頭痛も倦怠感もなく、「良かった。今回は大丈夫だ。」とほっとしました。しかし、テマを建てたり、タープを建てたりしていくうち、生あくびが出たり、寒気がしたりと体調が変わってきました。晩御飯は結局何もできず、準備も片付けも他の人に任せきりになってしまいました。迷惑をかけているに、温かい言葉をかけてもらいました。ありがたさと申し訳なさで、「情けない。本当に情けない。」と自分自身とても反省しました。

2日目、体調は回復し、朝ごはんもしっかりと食べることができました。「食べる」これが何よりも大切だと前回の研修で身をもって体感していたので、決まった量は必ず食べるように心がけました。食べた効果もあり、登りは休みながらも登ることができました。登る順番など細かく変えていたので、心にも余裕が出てきました。自分の体が一新したのは、お昼を食べたからです。お昼に食べたオレンジで体の何かが変わった気がしました。下りは、登りとは違って、仲間にも声をかける余裕が出てきました。自分の体調の事ばかりだったのが、今まで自分が声をかけてもらった分返さなきゃと考えることができ、一緒に来ている仲間のことを考えることができ、自分の体だけでなく、心も変わったと思いました。

3日目、一人が前日に体調を崩していたため、少し不安ながらも順調に登り進めていくことができました。前日の反省で、ザックダウンをこまめにとっていなかったことがあり、みんなの疲労も考え、30分ごとに水分補給、1時間ごとにザックダウンというサイクルを作りました。これによってスムーズにいくことができたと思います。

自分の体調も仲間との活動も軌道に乗ってきたと思った矢先、今回、ここで研修会が中止ということになりました。自分自身、2回目の参加で、「今度こそ8泊9日全日程やり通す。」「子ども達に、一度断念しても諦めなければできると伝えたい。」と思い参加を決意しました。その目標が断たれると分かった時、頭が真っ白になりました。寝ている時も悔しさで涙が勝手に出ていましたが、朝、目が覚めた時には不思議と気持ちがスッキリしていました。

4日目は、楽しもうという気持ちで挑みました。ずっとやりたかったサイクリングでした。自分はナビ担当だったので先頭を走らせてもらいました。今までの山道とは違い、道が複数もあったので、曲道や分岐では、後ろからみんなが声をかけてくれたおかげで、

何とかゴールまで先頭を走ることができました。道の途中では、早く行ける道と遠回りする道の分岐点ではみんなが周り道を希望したのが印象的でした。たった4日間しか一緒にいないのに、まるで昔からの友達のような気が合う仲間嬉しさもあり、もうみんな解散するのかと寂しさを感じました。

今回、4日間で自分は周りの考え、行動にただついていくことしか出来なかったなと思いました。みんなの考えを聞いて「そうやね。」としか言えなかったです。違う考えをもっていたわけではないですが、もっと自分の考えを表に出せていたらなと思いました。まだどこかで遠慮して臆病な自分がいたのかもしれない。しかし、今回一緒に、指導者研修会を受けた4人はこれからも29期の仲間として大切な存在になりました。異例の29期として、他の代の方々より経験が少ない状態で研修が終了してしまいましたが、これから色々な経験を一緒に積んでいき、強い仲間として山で活動していきたいです。

これから自分は、学校に戻り、子ども達にこの夏の経験を伝えることができたらと思います。前回の苦しさや悔しさ、今回の楽しさ、何より素敵なお仲間との出会いについて話していきたいと思います。本当の仲間って何だろうと考えるきっかけを作っていきたいです。そして、子ども達にもそのような出会いや経験をしてほしいを強く思いました。いつか自分が学校で教えている子と十種ヶ峰と一緒にチャレンジしていくことができるよう諦めず頑張っていきます。

2回目という異例の参加者を受け入れてくださりありがとうございました。今回も達成することができませんでしたが、いつか必ず8泊9日をやり遂げたいと思っています。また、参加できる機会をいただければ、またご指導のほどよろしくお願ひします。



重村 明日香（周南市立久米小学校）

この研修に参加した理由は、大きく2つあります。1つ目は、興味があったことです。周りの先生方が「山登りは楽しい！人生観が変わるよ。」と言われていたので、私もやってみたいと思ったからです。2つ目は、児童への関わり方を学びたかったからです。どうしても関わりすぎたり、逆に指導不足だったり、自分の関わり方に悩んでいました。

初めて、このメンバーと出会ったとき、誰が誰だか分からず、自分からも関わろうとも出来ませんでした。しかし、1日目のザックを背負ってから、少しずつ打ちつけていけたように思います。2日目、3日目と時間が経つにつれて、自分を飾ることなくメンバーと話せたかなと思います。普段は、人の顔を伺って生活することがよくあり、ここまで自分の素を出して取り組めたことに私自身驚いています。それもこれも、温かいメンバーと巡り合えたからと思っています。重たいザック、果てしない道のりに何度も心が折れそうな時、「元気？」「大丈夫？」などと声をかけてくれたり、意見を出したい時にも、まずは受け止めるといった気配り、心配りがありました。自分がこのメンバーの中にも大丈夫！やっていける！と思えるには、環境はとても重要なのだなと改めて実感しました。また、今回は、一つ一つの山や、課題をクリアするという明確な目標があり、そこに向かって取り組みました。目の前にやってみたい、やらなければならないものがあり、みんなの気持ちが一つになれば、チーム一丸となれることが分かりました。さらに、そこに向かうため、自分たちでどうにかしようという意欲も芽生えていたなと感じました。

今回の研修を通して、これから大切にしていきたいことを自分の中にもてたような気がします。まず、安心安全な場でこそ、人は自分の力を発揮できるということです。言葉遣い、聞き方、態度など、相手を考え、思いやる雰囲気づくりの大切さに気付きました。次に、大きな目標に向けて、クリアできる小さな目標を組み立てておくということです。小さなことからコツコツ、その出来たという自信が次に向かう原動力になることを身をもって実感しました。最後に、挑戦と無理は違うということです。私のモットーは、「限界は自分が決める」でしたが、自分の体や心が辛いサインを出しているときには、周りに伝え、休ませてもらうことも必要であり、それによって周りも助かることがあると知りました。

そして、インストラクターとして一緒に活動して頂いた先生方からも、指導者としての役割も学びました。まず、自分たちに考えさせるということです。課題をクリアするときにも、失敗をしたときにも「教える」ではなく、「何だと思う？」と問う。そうすることで、自分たちで気づき、次に生かせることができたように思います。しかしながら、時には、助言を頂くこともありました。

それは、道からそれてしまいそうになった時、命の危険がある時でした。落ち着いた口調で、でも、力強いまなざしで対応くださった姿は、私たちの事を思って伝えてくれていると感じました。

今までの私は、自分中心に考え、感情に任せて過ごしていたように思います。「もっとすてきなクラスにしたい。」そう思っているのになかなか上手くいかないのは、一つ自分にも原因があるのだろうと考えさせられました。ここで経験した、人の温かさ、任されるうれしさ、達成感など、クラス子どもたちに学級の中で還元できたらと思います。そのために、自分いできることを考え、これからの教員人生を歩んでいきたいです。



藤本 萌佳(宇部市立川上小学校)

はじめは楽しい気持ちで臨んだ研修でしたが、2日目の登山は予想以上にきつかったです。荷物が重いのと斜面が急なので、息も苦しく不安でいっぱいでした。だけど2日目と3日目を乗り越えてたくさんの学びを得ることができました。

私は普段、常に100パーセントの力で行動しようとしてしまいます。今回も、登り初めはできる限りの力を出しながら頂上を目指そうとしていました。だけど荷物も重たいし、常に頑張っているのは疲れてしまいます。はじめは頑張ろうと思って進んでいましたが、果てしなく続いている登り坂を見て、いつまで頑張ら続けたらいいのだろうと足が動かなくなってしまいました。そのとき、急に頂上にはたどり着けないのだから無理して頑張っても仕方ないなと気が付きました。そして、ペースを上げたり落としたりするよりは、ゆっくりと一歩ずつ進み続けることが大切だと教わりました。2日目の学びを生かし、3日目の登山では初めから頑張らすぎるのをやめ、果てしなく続くのだからと気長な気持ちで臨みました。肩の力を抜くなど無駄なエネルギーを節約しながらのんびりと歩いたこともあり、2日目よりも安定した気持ちで登りきることができました。学校生活など普段の私も、いきなりゴールを目指そうとするあまり、焦って無理をしてしまいます。だから途中で疲れて急に動けなくなってしまうこともあります。それよりも、すぐにゴールにはたどり着かなくても、無理せずゆっくりでも進み続けることが大切だと学びました。

夜のテント場で「一人では決して登り切れなかったよね」という話をメンバーとよくしていましたが、本当にその通りだなと思いました。私は2日目がとてもきつくて、荷物の重さや呼吸のしづらさにくじけそうになっており、翌日の登山がとても不安な気持ちでいました。それを見かねたメンバーが気にかけてくれて、翌日はたくさんのサポートをしてくれました。例えばリーダーの方には1時間ごとのザックダウンと30分ごとの水分休憩を確保してもらい、休憩のリズムを一定に保つことができました。ナビをしてくれた方を中心に現在地を把握することができたので、果てしなく続く不安から逃れることができました。そして何よりもみんなが共同の荷物を多めに持ってくれることで私の荷物を軽くしてくれたり、「がんばろう」と声を掛けて励ましてもらったりすることで最後まで登りきることができました。きっとみんなもきついはずなのに、雑談したりカラオケ大会をしたりして明るい気持ちで登りました。3日目の登山はたくさん歌を歌いながら歩き、きついけど本当に楽しかったです。この研修が始まる前は、「みんなの余裕がなくなって疲れたら、きっと対立や喧嘩が起こるのだろうな」と思っていたのですが、メンバーが窮地に追い込まれ苦しくなった時に起きたのは、対立や喧嘩ではなくて支え合いでした。そのことに本当に救われて、素敵なメンバーに巡り合うことができたなと心から思うことができました。人間だ

から余裕がなくなることもあるし、強く当たってしまうこともあると思います。だけど今回のように、お互いを補い合いながら思いやれる優しいチームだと居心地がいいなと感じます。

今回のメンバーは、つらい時に支えてくれただけではなく、ありのままの自分を受け入れてくれました。3日目の終わりに、メンバーの一人が暑さからダウンしてしまいました。びっくりして思わずほかのメンバーに「ポカリを飲ませよう」とか「バンダナとシャツを濡らして冷やして」とかいろいろお願いをしました。後から「年下なのに少し出しやばりすぎたかな」と反省していたけど、夜のミーティングで「あのときはよかったよ」と認めてもらい、自分の課題だと思っていたことがプラスに働くこともあるのだなと思いました。メンバーは、私がミスをした時も「大丈夫だよ」と受け入れてくれます。ダメな自分でも怒らずに受け入れてくれて、寛大な感じ、その優しさにうれしく感じていました。私は自分で自分の弱いところを許せないことが多いですが、今回メンバーにたくさん受け入れてもらって、あまり自分を責めなくてもありのままでもいいのかもしれないと思えました。チームは自分を受け入れてくれるけれど、私自身もチームに身を合わせて行動することも大切だと学びました。例えば「これをした方がいい」と一人で突っ走るよりも、きちんとメンバーと話をし、「今はテントを張ろう」とか「私は料理をするね」ときちんと共有したうえで動くべきだなと思いました。

素敵なメンバーに恵まれ、良いチームが築けていたころなので、突然の中止のお知らせには本当に悔しい気持ちでした。メンバーで支え合ったり団結したりする瞬間が、残りの時間でもっと見られたかもしれないと思うと、惜しくもありました。だけど、3泊でも素敵なメンバーに出会えてよいチームが築けたこととそのご縁に感謝をして、また臨みたいと思います。



令和6年度 地域と連携したリアルな体験活動充実事業報告書

令和7年3月

山口県教育庁 地域連携教育推進課 青少年教育班
山口県山口市滝町1-1
電話 083-933-4650

※本事業は、文部科学省の令和6年度「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」の委託を受けて実施しました。